

高知大学希望創発センターの中核プログラム

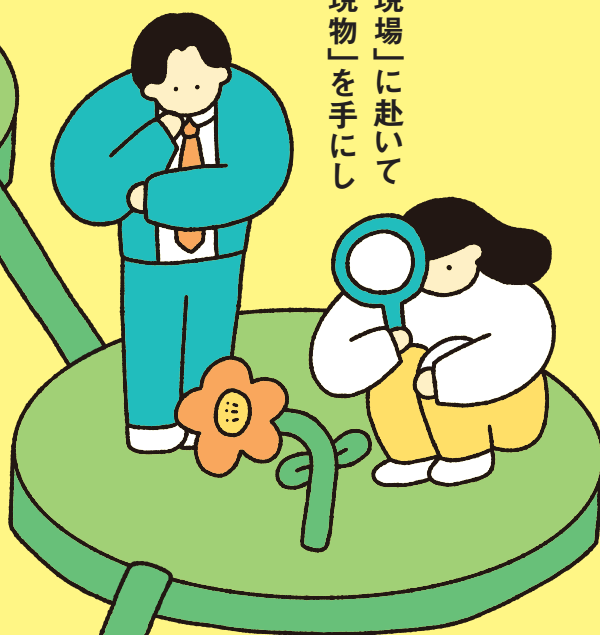
希望創発研究会

社会課題の
解決を通じて
人をつくる

人の思いに触れて
「現実」を知り



「現場」に赴いて
「現物」を手にし



寛容を基盤に
徹底的に議論する



産官学・文理・地方と都市などあらゆる境界線を越境して人々が集い、社会や地域の本質に迫る高知大学希望創発センター。

その中核プログラムのひとつである「希望創発研究会」は、高知県内外で活躍する社会人と高知大生がチームを組み、社会課題の解決に取り組む力をつけていくための実践の場です。

未来はどうあるべきか？ 私たちが生きる時代の 『問い』を発見する

希望創発研究会の理念と 目指すべき人材像

現代社会に対峙し 未来への希望を見いだす

経済のグローバル化や情報技術の発展を受け、あらゆるものを「お金」というモノサシだけで測ることが求められるようになってしまった現代社会。大学などの高等教育機関では短期的な課題解決…すなわち「ソリューション」に偏重した研究機関へと変質する傾向が顕著であり、企業や組織においてもその傾向は同じであるように見受けられます。

そんな社会の中で生きているうちに、人々は自分自身がどうありたいのか、自分自身は何を大切にしたいのか？という思いや願いを置き去りにして、日々「どうすべきか、せざるべきか」という『べき論』にいつのまにか支配され、追い詰められるようになってしまっています。

私たち希望創発研究会は、このようなどこか閉塞した社会や自分自身に真正面から対峙し、一人ひとりが自分自身の「パーソナルな軸」を再構築し、画一化された「べき論」的な思考パターンから脱却し、自身の内側からわきあがる「未来への希望」を《創発》することを目指し、設立されました。



例会の様子

現場に立ち、現物に触れ、 現実に向き合い、 イノベーターを育てていく

ソリューション偏重の時代を突き抜け、あらゆる分野で新しい価値を創造し変革を遂げるイノベーションの時代へと進むために不可欠なのは、まず第一に物事をじっくり観察して思考を巡らせる力を持つこと。そして、第二に新しいアイデアや技術を積極的に取り込む柔軟さを持ち、実践を重ねた先に本質を見いだす力であると、私たちは考えています。

そうした力を身につけていくために、本研究会では高知県内外で活躍する社会人と高知大生が約一年間にわたりチームを組んで活動を行っています。現場や現物、そして現実に向き合う「三現主義」を大切にしながら、多様な才能や経験を持つ同時代に生きる人々が顔を合わせ、「共に語り、共に学び、共に知る」ことに取り組んでいくことで、現代社会に新たな地平を拓くイノベーション人材を育てていきます。



現地調査／インタビューの様子

研究会の7つの心得

本研究会では、メンバーひとりひとりの自主性を引き出し、考える力を極限まで高め、事実を多面的に深く観察する力を身につけていくことができるように、下記のような「心得」に常に立ち返りながら活動を行っています。

- ①「なぜ？」を問い続けよう
- ②普通の中に価値を見出そう
- ③他者との関わりの中で自分を知ろう
- ④自分の物差しで世界を見よう
- ⑤感情・感覚の揺らぎを大切にしよう
- ⑥違和感を見逃さず、言葉にして発信しよう
- ⑦視点の変化を楽しみ、未来につなげよう

仲間とともに 議論と仮説の検証を重ね 試行錯誤を繰り返す

希望創発研究会の教育研究システム

あらゆる「協働」を基盤に活動

希望創発研究会では、大学と地域との間での《地域協働》、産業界と大学で共同研究や開発にあたる《産学協働》、文系と理系双方の視点を取り入れて学ぶ《文理融合》といったあらゆる「協働」を基盤に活動を行っています。

一年間のプログラムは、参画メンバーひとりひとりが俯瞰的な問題認識と幅広い角度からの社会課題を掘り下げの力をつけ、具体的な課題解決策を積極的に提案できるようになることを目標に設計しています。

また、学術志向型学習(AOL)による理論的理解と、社会志向型学習(SOL)による現場や他者との関わりを通じた実践的な学びを両輪に据え、俯瞰的視点を養うことを目指します。

- 学術志向型学習: Academic-oriented Learning (AOL)
- 社会志向型学習: Social-oriented Learning (SOL)

特徴的なプログラム

●企業人と学生の混成チームで活動

多様な業種・地域から参加する企業人メンバーと、本学においてさまざまな分野を学ぶ学部生・大学院生からなる5～6名の混成チームで活動を行います。各チームには、研究会の理念に共鳴する本学教員1名と企業人ファシリテーター1名が参加し、各チームの活動の支援や例会の進行、メンバーのキャリア支援や信頼関係の構築にあたります。



現地調査／インタビューの様子



1～3月

解決策を基にした プロトタイプを検討する

実践的なプロジェクトを通し、解決策の仮説の有効性や実現性を確認します。その解決策を基にした社会活用プロトタイプを検討します。

10～12月

課題を解決するための 仮説を立て検証を行う

調査、学習、観察、インタビュー、思考、議論という「試行錯誤のプロセス」をさらに重ねていながら、課題解決のために有効な解決策の仮説を立案します。また、その有効性を検証するための実践的なプロジェクトも実施していきます。

7～9月

問題を把握し 解決すべき課題を特定する

調査や学習、観察、インタビューなどを通し、「実現したい社会」を現実のものとするために発生しうる問題を多角的に検討することを繰り返します。また、ここで把握された「問題」を解決するために必要な「課題」が何であるか、さらなる思考や議論を重ねて見定めていきます。

5～6月

個人単位の問題意識を チームメンバー間で共有する

新しく仲間となったチームメンバー同士で、日々感じている問題や未来の社会像を語り合い、現地などにも赴くことでそれぞれの「問題意識」を共有し、チーム単位で「実現したい社会」とはどのようなものなのかを考えていきます。

●合計22日間の「例会」で未来を描く

5月から翌3月までの約一年間にわたり、計7回の対面方式と計4回のオンライン方式による毎月一回合計22日間の「例会」を開催します(原則連続する土・日開催)。

例会では、問題意識の共有から『解決すべき課題』の特定、課題解決策の立案などに段階的に取り組み(左図)、翌3月の最終報告会でチームごとに研究成果を報告します。

報告会終了後には、その研究成果について論述する「個人論述書」、一年間の活動を振り返りながら社会における希望をどのようなものと考えようになったかを記述する「リフレクションレポート」を提出。翌6月中旬までにチーム担当のファシリテーターが全員にフィードバックを送付し、活動を終了します。



最終報告会の様子

●試行錯誤のプロセスを楽しむ

研究会のチーム活動では、調査・学習・観察・インタビュー・思考・議論を何度も重ねながら仮説を立案したり、その有効性や実現性の検証を繰り返す「試行錯誤のプロセスを楽しむ」ことを何よりも重視します。

ファシリテーターは、メンバー同士が感性の赴くままに議論を重ね、思いもよらない仮説が生まれる『創発』の瞬間を体感できるよう誘導するとともに、メンバーひとりひとりが幅広い角度から社会問題を掘り下げの力を持つこと、具体的な課題設定や解決策を検討・提案する力を持つことができるように支援を図ります。

なお、『解決すべき課題』の解決には10年、20年といった単位の長い時間を要するものが多く、1年間の研究会活動の中でこれを解決することはできませんが、研究会のチーム活動では「当面の目標まで到達」することを目標に、まず取り組まなければならないテーマを掲げるところから出発します。

試行錯誤プロセスの種類

- 調査
- 学習
- 観察
- 思考
- 議論
- 課題インタビュー
- 実験
- 有効性の検証
- 実現性の検証

DATA

希望創発研究会のデータ

1

過去の研究テーマ

希望創発研究会では、「よりよい未来社会をいかに創造するか」という大テーマの元に、各チームで研究テーマを自由に設定します。

2024年度

- ・人の幸せ 地域の幸福
- ・誰もが自分の“幸せのカタチ”を大切にできる未来に向けて
- ・自分探しを実現するサービス「ここたび」について

2023年度

- ・「おやこうち」親子×高知から生まれる地元愛
- ・郷土愛と地尊心が向上し続けるための提案
- ・高知県のキジとアメゴにみる、
地方特産食品の課題と解決策について
- ・「日本シニアニア計画」
～関係人口と「人と人とのつながり」の創出～

2022年度

- ・「つながり」と「ひとり」のバランス
- ・人生変わっちゃう!?高知で!
～高知まるごと体験プログラム～
- ・こうChill?
- ・関係人口増加へ寄与するための提案
- ・人を幸せにする水産業の実現に向けて

2021年度

- ・社会教育エコシステム「COMPASS」
- ・高知大から繋ぐ未来のカタチ～高知BASE～
- ・移住の船に乗ろう!～“移住”は明るい未来に繋がるか?～
- ・高知県民ワクワク創出大作戦
- ・地域生き残り戦略
～バーチャルからリアルへ 大豊町巡礼の旅～
- ・家庭における家事分担の再配分から始まる
格差のない社会づくり～偏った社会をがらがらポン!～

2

これまでの参画者

希望創発研究会は、2018年度から多様な業種、地域から企業人メンバーを迎えることができました。学生についても、さまざまな専攻(大学院)や全学部からの参加を実現しています。

参画企業(2018年度～2025年度)

旭化成、旭化成エレクトロニクス、旭有機材、荒川電工、イオンアイビス、オリンパス、カウネット、花王グループカスタマーマーケティング、和建設、カルビー、技研製作所、栗田工業、高知銀行、高知新聞社、高南メディカル、コクヨ、高知大学、サントリー食品インターナショナル、山陽マルナカ、セリオ、センプラン研究所、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ、ダイセル、チカミルテック、帝人ファーマ、帝人フロンティア、帝人ヘルスケア、南海化学土佐工場、日揮、ニッポン高度紙工業、日本自動車連盟、日本電気、日本電気通信システム、パナソニック、パナソニックコネク、パナソニックシステムソリューションズジャパン、ファーストリテイリング、富士通、富士通四国インフォテック、マルナカ、三井情報、ヤマト運輸、ヤマトホールディングス

3

修了者の声

希望創発研究会では、2018年度から2025年度までにのべ245人の参画者を迎えてきました。ここでは、ごく一部の修了者の声をお届けします。

- 専門性の高い講師や多様なバックグラウンドを持つスピーカーによる講義が非常に刺激的でした。(大学院生)
- 研究畑一筋で論理的にばかり考える癖がついていたのですが、さまざまな人との対話の中で、論理だけで解決できないことがあるということに気付かされました。(大学生)
- 研究会の活動期間中、終始何か新しいものが生まれそうなワクワク感にあふれていました。(大学院生)
- 全く異なる人生を歩んできた人々との対話を重ねることで、さまざまな価値観や考え方に触れ、自分自身の考え方を深める機会となりました。(企業参画者)
- 自分自身の物差しや目線の必要性を理解することができました。業務に戻ってからも会社全体の視野で物事を考えるようになりました。(企業参画者)
- 目先のことにとらわれがちな自分の弱点を再認識することができました。つねに「なぜ?」という視点を持って仕事の全体像を捉え直すようになりました。(企業参画者)

WANTED

希望創発研究会への参画者募集

希望創発研究会では、研究会の趣旨に賛同する高知県内外の企業において将来を嘱望される社員の方、研究会へ参画する意欲を持つ高知大生の参加をお待ちしています。20代、30代、40代、50代…と世代を超えて議論し、学びを深めていきましょう。



20代

未来への一步を踏み出す準備のために

無限大に広がる可能性。同期や先輩の活躍を見て焦ったりすることもあります。その焦りとは成長を望む気持ちの表れでもあります。研究会で自分らしいキャリアを描くためのヒントを探してみませんか?



30代

ワークライフバランスを整えるために

30代は、結婚や育児といったライフイベントを迎えつつ、仕事とのバランスで悩むこともある時期です。自分らしいワークライフバランスのヒントを見つけに研究会に参加してみませんか?



40代

キャリアの可能性を広げる新たな可能性のために

40代は、責任が増す中でいかに自分のキャリアを広げるかを考える時期。専門性を磨くべきか、新たなスキルを身につけるべきか。次の一步を踏み出すための視点を探しに参加してみませんか?



50代

経験を活かし、未来を創る準備のために

これまでに培った豊富な経験を次のステージでどう活かすか。社会や次世代への貢献の可能性を描き、新たな挑戦への準備を進めてみませんか?

募集要項

①企業社員 参画料:300,000円/年(税込)

希望創発研究会の趣旨に賛同する高知県内外の企業において、将来を嘱望される人材であればどなたでも参画することができます。

※対面例会等への出席や現地訪問等のための旅費交通費、オンライン例会等への通信費は自己負担となります

②学生 参画料:無料/年

高知大学の2年生以上で、希望創発研究会に参画する意欲を持つ者であれば、どなたでも参画することができます。登録希望者が多数の場合には人間関係形成インターンシップ(SBI)の履修済者を優先的に登録します。

※SBIとは、個々の『ありたい姿』から個人・チームの目標を立て、3人1組で3週間のインターンシップを行う集中講義です。



×



希望創発センターで培ってきた経験をより多くの市民のみなさんに開放することを目指し、2023年度に希望創発センターが取り組む「みんなのセミナー／サマーセミナー」「養殖キャラバン」「哲学カフェ」などの実践的な取り組みが内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム「SIP」に採択されました。

この事業では、経済原理によって結ばれがちな人と人との関係を、「人」と「人」とのつながりへと結びなおすことを中心に据え、そのプロセスを通じてイノベーションの創出が促進されること、経済が持続的に循環し地域が自立していくこと、各地域の「顔」となる多様な文化が育まれていくことを目指しています。

私たちは、希望ある社会を愉快地に、そしてゆったりと創っていくこと、そして、そのなかで一人ひとりが幸せな生き方を実感できる社会を実現していくことに、本気でチャレンジしていきます。



高知大学 SIP



<https://www.kochi-u.ac.jp/kochisip/>

本事業は、2023年度に採択された内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期課題研究開発テーマ「主体性を醸成する生涯学習プラットフォーム構築と「知」の総合化」における希望創発センターの取り組みです。



希望創発センター

Center of Education and Research for Hope-Emergence

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1
 高知大学 学務課 学習・研究サポート係
 TEL: 088-844-8440
 E-mail: gm26@kochi-u.ac.jp



高知大学 希望創発



<https://www.kochi-u.ac.jp/kibou-souhatsu/>

